

令和4年度 隠岐の島町アイノマゲート推進協議会 議事録

日 時：令和4年8月30日（火）13：30～15：00

会 場：隠岐の島町役場2階 201会議室

出席者：別紙参照

1. 開会

2. 町長あいさつ

池田町長：本協議会開催にあたり、お忙しい中委員をお引き受けいただきありがとうございます。西郷港周辺については策定した整備計画により町の活性化、地域の活性化を図っていこうというものであり、本土の駅前の再開発、大型の都市計画での開発ではなく、わが町の身の丈にあった町の活性化を図るものである。また、西郷港周辺は来町された方の玄関口だけではなく、以前のように地域の方々にとっても、親しみ・憩いの場としての空間を作っていきたいという思いがある。10年間の長い計画ではあるが、まずは5年実施できればと思う。先述の件について、4年間桑子先生を中心にまちづくり座談会という形で、小中学生も含めた町民の意見をまとめ、デザインが決定した。このデザインを中心に、町の思い、町民の思いを結集して将来の子供たちにとって、あのまちづくりは良かったといわれるような計画にしたいと考えている。皆様をお願いというよりは、皆様と一緒にまちづくりを行っていく思いであります。今後ともよろしくお願い致します。

3. 委員紹介

◇別紙参照

4. 会長の選任、副会長の氏名について

◇会長：桑子敏雄委員 ◇副会長：細田智久委員に決定

～会長あいさつ～

桑子会長：私は隠岐の島に呼んでいただいてから4年になる。今まで島根県のまちづくりや計画策定に関わる仕事に携わらせていただいたが、この隠岐の島のまちづくりがこれまで行ってきたまちづくりの集大成になると感じており、完成まで10年の計画だが、最後までお仕えさせていただければと思う。このアイノマゲート推進協議会だが、3月に行ったデザインコンペでは、審査委員長をさせていただいた。全国に類を見ない新しい試みとしてYouTubeでの配信、小中高生も含めた住民の皆様の意見聴取、また、委員会での議論の結果「アイノマゲート」という作品を提出したチームが最優秀賞を獲得した。現在は、連絡を取り合いながらこのデザインの実現に向けて議論をしている。この協議会は全島の課題を含めた議論の場として重要な場であり、この町が変わっていくのは隠岐の島全体に大きな影響を及ぼすと感じている。会長として良い提案ができるよう努めさせていただくため、ご協力いただきますようよろしくお願いします。

5. 議題

1) 西郷港周辺のまちづくりについて

◇資料説明

◇質疑応答・意見

なし

2) 西郷港周辺地区整備の内容について

◇資料説明

◇質疑応答・意見

なし

3) 今後のスケジュールについて

◇資料説明

◇質疑応答・意見

なし

6. 意見・感想

細田副会長：最優秀賞の作品を拝見し、いい案だと思った。現在、出雲大社前の通りはインターネット上だと全く見えない。そこを、来た人に開いていくのは良い発想だなと思った。また、隠岐の島町は船から降りると海を見る機会がないと常々思っていたため、その観点からも良い案だなと思った。ただ、いろいろな機能を付けていかないといけないため、里帰りする方や観光客の方、島民の方にとって居間や、客間などになっていけばと思う。

徳畑委員：経済的な観点で言うと、現在の隠岐の島町は、駐車場が小さい、有料であるという点が近視眼的な考えであるが問題であると思う。折角整備するのであれば、大きくかつ無料の駐車場があればよいと思う。このデザインを初めて見たが、現在の駐車場が端に寄せられており、人の集会スペースができていますが本当に集まるのかという気持ちもある。また、高速船乗り場などについても検討していただきたい。接岸時は航送車両の下船などの危険が伴うことが見込まれるため、このデザイン通りに手を加えるのは厳しいのではないか。デザインは美しく良いが、機能面についても考えないといけないのでは。

桑子会長：これまでの談義でも駐車場の数について、何度か質問があり事務局も把握している。また、高速船乗り場については立ちっぱなしで待つというのは辛そうだと思っていた。私が行ったことある港では、待合室には椅子があったり、指定席になっていたりなどの工夫がされていた。隠岐の島でも同様なことができればと思う。

事務局：このデザインでは、現在の駐車場の数から減らさないようなデザインになっている。ただ、今のままで良いかというのは今後調査していく予定であり、使いやすい駐車場についてこの場で議論できればと思う。町側に大きな駐車場を作るのは駐車場の町となるので避けようというのはデザインチームと考え方は同じである。このデザインに記載はされていないが、高速船乗り場については、今後隠岐汽船とも話し合っていきたい。

井本委員：まちづくり周辺の整備計画はどこの省庁に提出するのか。内示などのスケジュールはどうなっているか。

事務局：8月に国土交通省に対して計画の考え方、全体に係る費用の概算を説明した。また、国に説明する前に、広島の中地方整備局に行き説明した。そのあとは中国地整が国に説明するようになっている。その後は、年明けに令和5年度の本要望を提出し、2月、3月のところで内示が来る予定となっている。

真井委員：この計画を実現するには、国土交通省から色々な事業を引き出さないといけないように思う。以前、立地適正化計画を策定する際に国土交通省の職員が来庁されたという話があったが、可能であれば来町していただいて事例紹介をする場が設けれればと思う。また、隠岐汽船の待合所については、指定席にすれば何の問題もない。そのような話はしてみても良いんじゃないかと思う。

大庭委員：9月に町長と石田が国土交通省に出向き、進捗などの説明をする予定である。その際にそのような話ができればと思う。

井本委員：このような計画を他の自治体で実施したところはあるのか。

事務局：港は他の自治体でいえば駅であり、駅前の再開発をしている事例はあるが、住民と話し合いながら決めた内容でデザインコンペ仕様書の作成、次世代の子供たちを巻き込んだ学習などの取組は高い評価を受けている。そのような港まちづくりに関しては、島では初めてだと聞いている。

7. 事務連絡

事務局：今年度スマートアイランド事業が採択された。今後デジタルを活用したまちづくりも進めていく。また年内に1回、年明けに1回ずつの開催を予定している。

8.閉会